

III-4

多発性骨髄腫におけるトランスレーショナルリサーチの実際
より早い臨床導入を目指して

安井 寛^{1,2}、秀島 輝¹、Kenneth C. Anderson¹

Dana-Farber 癌研究所 Jerome Lipper 骨髄腫センター¹、札幌医科大学第一内科²

多発性骨髄腫では、近年、遺伝子情報やシグナル伝達に基づく新規治療薬の開発が欧米を中心に活発に行われている。例えば、骨髄微小環境が腫瘍細胞の増殖促進およびアポトーシス抵抗性に関与することが明らかとなり、その結果、骨髄微小環境をも治療標的としたプロテアソーム阻害剤ボルテゾミブ・サリドマイド誘導体レナリドマイドが、骨髄腫治療薬として米国当局の承認を受けた。

一方日本での癌研究は、基礎研究および創薬のレベルの高さは国際的に評価を得ているが、新規治療薬の臨床導入の速度が欧米に遅れをとっていることは否めない。したがって、骨髄腫においてもより一層のトランスレーショナルリサーチの推進が望まれる。本報告では、ボルテゾミブ・レナリドマイドの臨床前試験および臨床試験を行ったダナファーバー癌研究所を例にとり、遺伝子プロファイリングによる治療標的の探索、*in vitro*, *in vivo* における治療標的の妥当性の評価（臨床前試験）から第 1 / 2 相臨床試験までの流れを検証し、併せて米国でのトランスレーショナルリサーチの現況と方向性を検討したい。